

科目名	書道			担当教官	寺坂文和		
学年	1 年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分野	一般	授業形式	実技	科目番号	08G01_20150		
学習目標	国語科書写では、文字を正しく整えて書くことを目標としたが、芸術科書道では、書写の能力をさらに高め、書之美を追求していくことを目指す。 書の表現と鑑賞の基礎能力を育てるとともに、古典の臨書と創作を通して、芸術としての書之美を学ばせ、書を愛好する心情を養う。						
進め方	・表現の学習では、実技を通して臨書と創作をする。 ・表現力を高め豊かにするには、すぐれた書を鑑賞し感性を養うことを心がけるようにする。						
履修要件							
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1.書之美を求めて(1) 2.楷書の学習の基本(2) 3.厳正な楷書と温雅な楷書(2) 九成宮醴泉銘と孔子廟堂碑の鑑賞と臨書 4.重厚な楷書と軽快な楷書(2) 建中告身帖と雁塔聖教序の鑑賞と臨書 5 行書の特徴(1) 6.蘭亭序の鑑賞(1) 7.蘭亭序の臨書（半紙）(2) 8.蘭亭序の臨書（画仙紙半切）(5) 9.行書による創作(2) 10.平仮名の単体(2) 11.変体仮名(2) 12.連綿(2) 13.漢字仮名交じりの書の学習(2) 14.古名跡を応用しての表現(2) 15.用筆・運筆および用具・用材の工夫(2)			書之美とは何かを考えさせる A3:1 書の基本形を把握する B2:1 古典の臨書を通して、用筆、運筆、点画の形や線質、字形など表現技法を学習する。 B1:1 創作の手順を理解し作品づくりをする。 B2:1 「いろは歌」により基本的なものを身につける。 B1:1 連綿の方法や仮名の流動美を理解する。 A1:3 漢字は力強く、仮名は優美さを特徴としているので、この両者を調和させて美しく表現できるよう工夫する。各自が意図した表現に近づける B2:1			
評価方法	毎時間、清書作品を提出させ、学習到達度評価を行うとともに、授業態度等も加味した総合評価を行う。						
関連科目							
教材	教科書：今井凌雪著「新編 書道Ⅰ」 教育出版						
備考							